

と よ う も ん 十曜の紋



はためく神旗

テロ、内戦、貧困、環境破壊…。昨今、私たちを取り巻く世界情勢は、「平和な世界」とは、ほど遠いものがあります。

このような時代だからこそ、私たちは、一日も早く平安な世の中が訪れるよう、日々、真剣な祈りを忘れてはなりません。

神さまの推し進められる、争いのない平和と幸福に満ちた「みろくの世」の建設に向け、はためく十曜の神旗のもと、皆さんと共に神さまのご用に邁進させていただきたいと、私たちは願っています。



亀岡宣教センター
みろく会館前



エスペラント普及会旗

十曜の神旗

人類愛善会旗

家紋、また校章や社章など、紋章は、その家柄や各種団体の系譜や格式などを象徴するものです。
もちろん大本にも同様に紋章があります。それが、一般ではちょっと珍しい「十曜の紋」です。今回は、この十曜の紋についてご説明いたします。



みろく博士

大本本部

綾部・梅松苑 綾部祭祀センター
〒623-0036
京都府綾部市本宮町1-1 梅松苑 / TEL 0773 (42) 0187

亀岡・天恩郷 亀岡宣教センター
〒621-8686
京都府亀岡市天恩郷 / TEL 0771 (22) 5561

東京本部 東京宣教センター
〒110-0008
東京都台東区池之端 2-1-44 / TEL 03 (3821) 3701

大本ホームページ <http://www.oomoto.or.jp/>



<連絡先>





家紋の歴史

家紋の起源は古く、平安時代後期にまでさかのぼります。もともと調度品などに装飾目的で描かれていた文様は、次第に貴族の各家固有の目印として使われ始め、平安末期になると、公家が独自の紋を牛車の胴に付け、披露して歩き回ったのが家紋の起こりといわれています。

その後、武士化した中流貴族が、家紋を戦場の旗印に使ったのを皮切りに武士の間でも広がり、さらに江戸時代には、農民や町人などといった一般庶民も家紋を所有するようになりました。現在、その種類1万とも2万ともいわれる家紋は、古くから今日まで息づいている、日本の文化といえるでしょう。

さまざまな家紋



下がり藤



左三つ巴



丸に結び雁金



左離れ立ち葵



丸に一つ帆



いろいろな模様が
あるんじゃなあ～



丸に抱き松



せんなりひきご
千成瓢



八重向こう梅

大本の神紋

家紋と同じように、神社や寺院にも独自の「神紋」や「寺紋」があります。

神紋には、各神社にゆかりのある公家・武家の家紋が用いられているほか、由緒縁起にまつわる独自の意匠が使われていることも多いようです。

大本の神紋は、十個の丸から形作られる「十曜の紋」で、明治32年7月から用いられるようになりました。十個の丸は、天地剖判のはじめから大宇宙が創世され、森羅万象が生じていく各段階を象徴的に示すと同時に、永遠に神さまのお働きが全大宇宙に満ちあふれていることを表して

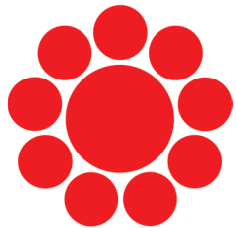
います。

また、「〇」の中に「十」を描いたものを裏紋として用いています。〇の部分には地球、縦と横の線は「陰と陽」

「火と水」などを表し、全体で「神さま」を示しています。この裏紋には、神さまが世界を結ぶという意味が込められているのです。

大本の教祖の一人、聖師・出口王仁三郎は、十曜の紋について、

「天地創造の国常立尊御出現の時に初めてきまつた紋であるという事を神界から承つて居るのであります」と示しており、十曜の紋の尊さを説いています。



十曜の紋

白地に赤の場合は神旗やちょうちんなど、金や紫の場合は神さまのお宮の戸帳など、使う場所によって色が決まっています。



裏紋

十曜の紋は使用できる場所が決まっています。それ以外の場所で大本本部から許可を得た場合、裏紋が使われます。

神さまのお仕組

大本の神紋が十曜となる以前は、一般的な九曜の紋が用いられていました。

ところが、王仁三郎が大本入りして間もなく、神紋入りの幕とちょうちんを注文したところ、九曜の紋で注文したはずのものが、出来上がってみると十曜の紋になっていました。店側に問い合せるも、「確かに十曜の紋と聞いている。九曜なら作りやすいが、十曜はなかなか難しいので、苦労して作った」とのこと。このことを開祖・出口なおが神さまに問うと、「わしが作らしたのだ」とおっしゃったそう。王仁三郎が大本に来たそのときから、九曜から十曜の紋と定まりました。人智を越えた神さまのお仕組の偉大さを思わせる、不思議な出来事です。